

自己免疫性疾患1

総論と診断のための検査

免疫血清検査

抗原抗体反応を利用した検査

抗体を用いた(抗原)蛋白量測定、

抗原を用いた抗体量測定など

現在では生化学検査・微生物(感染症)検査でも抗原抗体反応を利用することが多く境界がぼやけて来ている。

血清免疫検査

- TP、ALB、蛋白分画
- 炎症マーカー（CRP他）
- 感染症検査（梅毒、HB、HCV）
- 腫瘍マーカー（AFP、CEAとか）
- 自己抗体関連
- アレルギー検査
- TDM

自己免疫疾患の検査

自己抗体

(autoantibody)

自己の成分に対する

抗体

自己免疫の分類

{ 一過性自己免疫
持続性自己免疫→疾患

{ 液性自己免疫
(自己抗体)
細胞性自己免疫

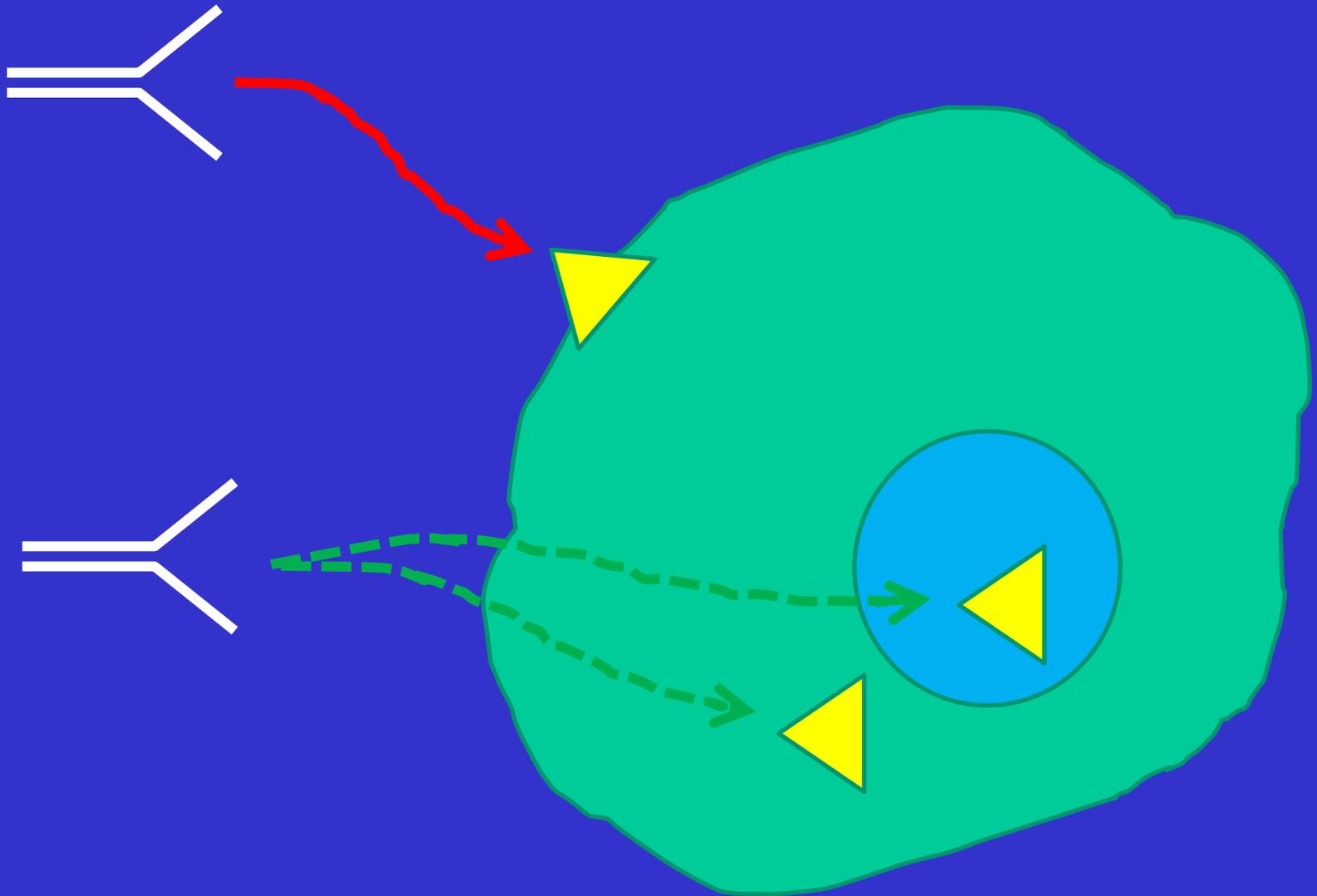
自己抗体

1. それ自体が病態を形成するもの

2. 組織障害は細胞性免疫主体
自己抗体は付随して出現している
→ 診断的価値

自己抗体





抗核抗体

antinuclear antibody

(ANA)

- homogenous(Ho)
- peripheral(Pe)=strongHo
- speckled(Sp)
- nucleolar(Nu)
- centromere(Ce)

今後も多く of 疾患関連自己抗体が発見されると思います。

また自己免疫発生の機序に関する研究も進展を見せることと思いい興味はつきません。

しかし、検査の有効利用には種々状況から疾患が疑わしい方を絞って検査を行うことが必要です。

この人が陽性にならないのは
不思議など患者情報を持つ医
師とのディスカッションによって
新知見が得られる可能性もあ
ります。

ご清聴ありがとうございました。